

24日 木曜

使徒

26:13 その途中のこと、王様、真昼に私は天からの光を見ました。それは太陽よりも明るく輝いて、私と私に同行していた者たちの周りを照らしました。

26:14 私たちはみな地に倒れましたが、そのとき私は、ヘブル語で自分に語りかける声を聞きました。『サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか。とげの付いた棒を蹴るのは、あなたには痛い。』

26:15 私が『主よ、あなたはどなたですか』と言うと、主はこう言われました。『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。』

26:16 起き上がって自分の足で立ちなさい。わたしがあなたに現れたのは、あなたがわたしを見たことや、わたしがあなたに示そうとしていることについて、あなたを奉仕者、また証人に任命するためである。

26:17 わたしは、あなたをこの民と異邦人の中から救い出し、彼らのところに遣わす。

26:18 それは彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、こうしてわたしを信じる信仰によって、彼らが罪の赦しを得て、聖なるものとされた人々とともに相続にあずかるためである。』

26:19 こういうわけで、アグリッパ王よ、私は天からの幻に背かず、

26:20 ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤ地方全体に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行いをするようにと宣べ伝えてきました。

26:21 そのために、ユダヤ人たちは私を宮の中で捕らえ、殺そうとしたのです。



26:22 このようにして、私は今日に至るまで神の助けを受けながら、堅く立って、小さい者にも大きい者にも証しをしています。そして、話してきたことは、預言者たちやモーセが後に起こるはずだと語ったことにほかなりません。

26:23 すなわち、キリストが苦しみを受けること、また、死者の中から最初に復活し、この民にも異邦人にも光を宣べ伝えることになることと話したのです。』

「とげのついた棒…」というは当時の慣用語でしょう。「足が棒になった」というように、分かり易くことばを選んだものと思われれます。いずれにしても、神を攻撃する者はとげのついた棒をけるようなもので、結局は自分を痛い目にあわせる事になるわけです。

パウロの弁明は異邦人、つまりノンクリスチャンに対するものですが、彼は理解し易いように話しています。神様の御心は全ての人を愛するがゆえのものですから、当然ノンクリスチャンとっても良きものなのです。それを分かるような表現で話すことも必要です。媚びるとか、妥協するのではなく、理解してもらおうのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

